

# リーダーの背中

「先輩から後輩に受け継がれるもの」

## リーダーが いなくなる不安

足羽学園は、小学校の低学年から高校3年生までと養護学校を卒業し成人の福祉施設に空きが出るのを待つて方まで、幅広い年齢層の方たちが利用しています。

どこの社会でも、人が集まるところでは、その集まつた人たちの中からリーダーとなる人物が出てくるものです。また、先輩から受け継がれるよき伝統や、スピーチ（精神）も必ず存在しているでしょう。

足羽学園の生活でも同じような現象が見られていました。

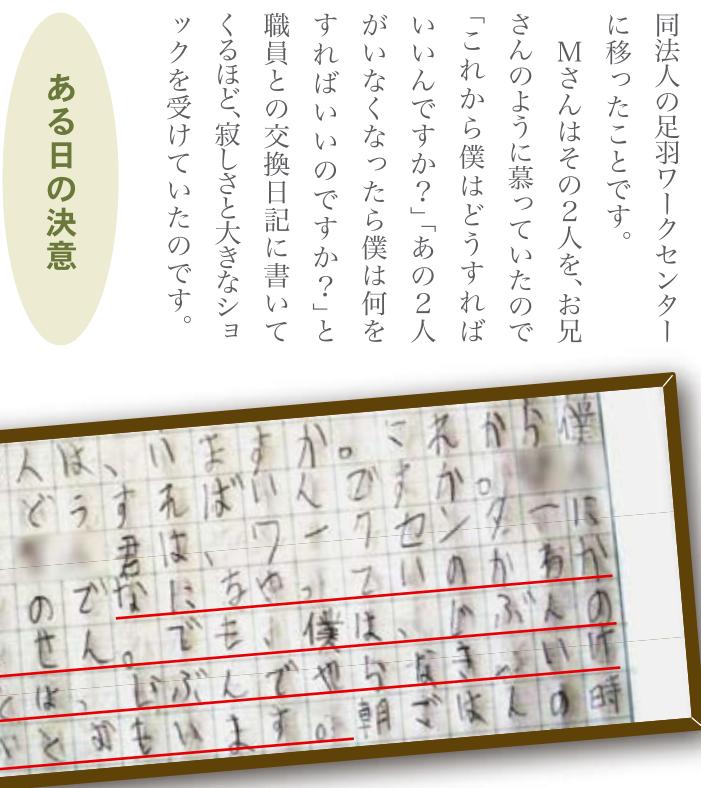
今回は中学校3年生になつたMさんの心の変化から感じたことを紹介します。

同法人の足羽ワークセンターに移ったことです。

Mさんはその2人を、お兄さんのように慕つていたので羽学園に入所しています。「これから僕はどうすればいいんですか?」「あの2人がいなくなつたら僕は何をすればいいのですか?」と職員との交換日記に書いてくるほど、寂しさと大きなショックを受けていたのです。

Mさんは約2年前から足羽学園に入所しています。体を動かすことも、友達と遊ぶことも大好きですが、内気でおとなしい性格の男の子でした。

## ある日の決意



「面倒くさいけど、終わったときは気持ちいい！」

自分のことは自分で

Mさんは、脱いだ服を部屋に置きっぱなしにし、同じ服を洗濯しないままに着続けていることがあり、清潔な服で過ごすことができるように支援が必要でした。

ところがある日「自分で洗濯がしたいです。洗濯機を使わせてください。」とMさんが自ら職員に伝えてきたのです。

それから毎日、自分の服は自分で洗濯して、自分で干して、自分でたたんでタンスに片づけています。

それからのMさんには別

人かと思う程の変化があつたのです。

それは、昨年度まで足羽

学園のリーダー的存在だった2人の男性利用者の方が

高校卒業と同時に、揃つて

Mさんのことは、じぶんでもや

かりません。でも、僕は、じ

ぶんのことは、じぶんでもや

らなきやいけないとおもいます。」という文章が書かれました。

ある日の交換日記の中に

「なにをやつていいのかわ

ります。」という文章が書かれました。

Mさんは、脱いだ服を部

屋に置きっぱなしにし、同

じ服を洗濯しないままに着

続けていることがあり、清

潔な服で過ごすことができ

るように支援が必要でした。

ところがある日「自分で

洗濯がしたいです。洗濯機

を使わせてください。」とM

さんが自ら職員に伝えてき

たのです。

それから毎日、自分の服

は自分で洗濯して、自分で

干して、自分でたたんで

タンスに片づけています。

※注(足羽学園の利用者の方の洗濯物は、基本的に職員がまとめて大型洗濯機で行います。しかし自立に向けた支援の一つとして、自分でも洗濯ができるよう家庭用の洗濯機を2台設置しています。)



大好きな先輩ととても楽しそうに遊ぶMさん(右) (撮影 H21.11)

### 仲間を思いやる心

中庭でボール遊びをしていたときです。

ある男子利用者の方にボールがぶつかり、その男の子は驚きと痛みで、中庭の隅にうずくまり、みんなと遊

く。「うずくまつて」いるMさんが「ちょっと」と話してMの子に駆け寄っていったのです。

2、3分後、Mさんは男の子の肩に手を回しながらみんなの輪の中に戻っていました。

### 受け継がれる財産

Mさんは自らがお手本となる行動を示したり、足羽ワーカーセンターに移った2人の行動をまねたりして、ほかの利用者の方にいろいろなことを伝えてくれています。このような行動を見ていると、先輩の行動が後輩に受け継がれていくという、素晴らしいサイクル、伝統があるのだ感じます。

内気で、自分から行動す

ばなくなってしまいました。

ほかの利用者の方はあまり気にすることもなくボール遊びを続けていましたが、

Mさんが「ちょっと」と話してMの子に駆け寄っていったのです。

ることがほとんどなかつたMさんの心に、こんなにも変化を与えたのは、これまでのリーダー的存在の利用者の方が残していくスピ

リツツなのかもしません。このスピリツツ!!財産を大切に引き継いでいてほしいと思います。

### みんなの広場

#### 足羽学園 夏の風物詩

##### 命のいとなみ



えさおいしいかな?



12年前の遺伝子を持っています。

毎年夏になると、カブトムシのがいを足羽学園に届けてくださる方がいらっしゃいます。それは、一昨年まで足羽学園を利用されていた利用者さん(地元の施設に移られました)のお父さん、山口昭秀さんです。山口さんが平成10年に足羽学園の敷地内で、たまたま捕まえたメスのカブトムシを自宅に持ち帰り、ご自宅で飼育され、成虫になつた子孫を届けてくださっているそうです。

実際に12年以上もの命のいとなみを続け、山口さんは利用者の皆さんに命の大切さ、素晴らしいことを伝えてくださっています。